

The Sinfonietta

第6回演奏会

1993年5月23日(日) 18:30開演

熊本県立劇場コンサートホール



指揮 (写真:木之下 亮)

山下一史

(NHK交響楽団副指揮者)



ヴァイオリン

篠崎史紀

(読売日本交響楽団コンサートマスター)

- 序曲「フィンガルの洞窟」 …………… メンデルスゾーン
- ヴァイオリン協奏曲ホ短調Op.64 …… メンデルスゾーン
- 交響曲第7番イ長調Op.92 …………… ベートーベン
(篠崎史紀氏が客演として出演)

- 全席自由席 / ¥2,000 (学生 ¥1,000) 市内各プレイガイドにて発売中
- 主催 / ザ・シンフィニエッタ ● 後援 / 熊本県・NHK熊本放送局・RKK・熊本日日新聞社
(問い合わせ先) 清永 TEL344-9567





(写真:木之下 光)

NHK交響楽団副指揮者

やました かずふみ

山下一史プロフィール

- 1961年広島県に生まれる。
- 1977年桐朋学園高校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、(故)森正の各氏に師事。
- 1982年「第17回民音指揮コンクール」で奨励賞を受賞。
- 1984年桐朋学園大学を卒業後、西ドイツのベルリン芸術大学に留学して研鑽を積む。
- 1985年12月よりヘルベルト・フォン・カラヤン氏の亡くなるまで、彼のアシスタントをつとめる。
- 1986年6月、デンマークで開かれた「ニコライ・マルコ国際指揮者コンクール」で優勝。9月、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の「第九」演奏会で、予定のカラヤン氏急病の為、急遽ジューバンのまま代役をつとめ、好評を博し、話題となった。また、1986年以來、ザルツブルク・フィングステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約。
- 1987年1月、デンマーク放送交響楽団、ライナス交響楽団、ソングーランド交響楽団等デンマークのオーケストラを、3月 広島交響楽団を、12月札幌交響楽団の定期演奏会と「第九」演奏会を指揮。以來、これらのオーケストラと定期的に演奏会を開き好評を得ている。
- 1988年1月、第14回「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮、ストラヴィンスキーの舞踏組曲「火の鳥」を演奏。衝撃的なN響デビューを飾る。8月、シヨバン作品全曲演奏で、園田高弘氏と協演。9月、副指揮者を置かなかったNHK交響楽団から指名を受け、契約。12月、早稲田大学オーケストラとフィリピンに演奏旅行、アキノ大統領臨席の演奏会を指揮。
- 1989年2~3月、早稲田大学オーケストラとヨーロッパ、アメリカ演奏旅行を行う。
- 同年4月には、NHK交響楽団定期演奏会の指揮者に抜擢され、好評を得ている。
- 1990年4月、オーケストラ・アンサンブル金沢プリンシパル・ゲスト・コンダクター、1992年4月からは同オーケストラのパーマネント・ゲスト・コンダクターを務める。
- なお、最近1993年の秋よりスウェーデン・ヘルシンボリ交響楽団の首席客演指揮者に迎えられることが決定した。北欧のオーケストラからの注目を集めており、今後の活躍が期待されている。



読売日本交響楽団コンサートマスター

しの さきふみのり

篠崎史紀プロフィール

- 3才より父、篠崎永育にヴァイオリンの手ほどきを受け、その後故田中令子、江藤俊哉各氏に学ぶ。
- 毎日新聞社主催学生音楽コンクールで全国第一位に度々入賞。
- 1979年、北九州市民文化賞を史上最年少で受賞する。
- 17才にて第一回リサイタルを開く。
- 1981年よりウィーン市立音楽院に留学。巨匠ヤッシャ・ハイフェッツの直弟子であるトーマス＝クリスチャン氏に師事する一方、アマデウス、バリリケルテットのメンバーに室内楽を学ぶ。又、世界的ヴァオリニスト イヴリー・ギトリス氏と出会い多大なる影響を受け、現在も親交が続いている。
- 第34回ヴィオッティ国際音楽コンクール室内楽部門Duoで第3位。
- 第20回ボルドー国際音楽祭にてシルバーメダル受賞。
- 1982年ウィーンコンツェルトハウスにてウィーンコンセルヴァトリウム管弦楽団と協演。“信頼性のあるテクニック”“真珠の様な輝き”“生命力と輝かしさ”“遊び心もある魅惑的な音楽性”と好評を博した。
- その後、ウィーンを中心に活動し、その間、アメリカ、ノルウェー、フランス、スイス等の各音楽祭に招待を受ける。
- これまでにNHK交響楽団、読売日本交響楽団をはじめ全国主要オーケストラと協演する。
- 1988年ウィーン市立音楽院を卒業後帰国、その後群馬交響楽団コンサートマスターを経て、1991年より読売日本交響楽団コンサートマスターの役席にある。

The Sinfonietta

- 1986年、熊本大学フィルハーモニーオーケストラ出身者を中心に結成された、演奏会の回数は少ないが、1年1回の本番へ向けての練習の積み重ねと本番の集中力で毎回好評を博している。メンバーの努力に加えて、今回の山下一史氏、篠崎史紀氏との共演に代表される数多くのすばらしい音楽家の指導もあり、次第に実力をつけてきている。この第6回演奏会もファンの大きな期待を集めている。